

# 令和元年度 事業報告書

平成31年4月1日～令和2年3月31日

## I 全体事業概要

令和元年度は、全国各地で台風や豪雨による大雨特別警報が発令されるなど、暴風雨による被害が多くなりました。管内では台風もそれて、大きな被害は免れましたが、この気象異変はここ数年続く現象でもあり、農業者にとっては今後も心配されるところである。また、新型コロナウイルス猛威による感染拡大の影響がどのようになっていくか心配なところである。

農地利用集積事業では、5月に「農地中間管理事業の推進に関する法律等の一部改正する法律」が国会で成立し、公社で行っていた農地利用集積円滑化事業は、農地中間管理事業に統合一体化されることとなった。このため、来年度より新規・更新の利用権設定は、公社ではできなくなりました。これにより今年度については移行期間として、今年度の利用権満期を迎えた農地については、利用権設定期間を令和2年12月末までの短期契約として、公社による利用権の設定を行い、来年度より農地中間管理事業に移行していく方針である。なお、手続き等の事務は、農地中間管理機構からの受託団体として引き続き事務を行っていく。

農作業受委託事業では減少傾向にあるが、農業機械更新に課題のある小規模農家や、世襲農地の維持管理を尊重する小規模農家からの受託業務を継続した。

担い手育成研修事業では、農業次世代人材育成支援事業による6名の研修生を受け入れた。内訳は第6期生として3名が、9月から就農を開始した。また第7期生としては、昨年の4月からトマト就農専攻者1名、7月、9月からはイチゴ就農専攻者2名を受入れ研修を実施している。このうちトマト就農専攻者1名は、今年の4月から就農を開始した。

新たな担い手育成支援においては、新農業人フェアや新城市単独のアグリチャレンジ相談会やメディア活用による広報、就農林相談会及び現地説明会等を開催、次年度はトマト1名とハウレンソウ1名が第8期生として決定した。

チャレンジ農家としての期待を担う農業塾は、6期生9名の塾生が9月に1年間の課程を修了し、9月から新たに第7期生8名を受入れ研修を実施している。

種苗等生産事業の菌床ブロック生産事業では、昨年度の損失を教訓に、再発防止のためのチェック体制の見える化や、菌床全体で1名の増員を図るなど、体制整備を図った。

収益事業では、夏の猛暑ではあったが順調に生育し、自然薯栽培では例年みられる腐りが少なく、重量や形状についても若干細く長いものが見受けられるが全般的に良好な収穫状況であった。また、菌床シイタケ栽培についても、全般的に良好な収穫状況となった。

## II 事業内容

### 1. 農地利用集積円滑化事業

- (1) 農地中間管理事業の改正法を受けて今年度は、農地中間管理事業への移行経過措置として、利用権設定期間を令和2年12月末までの短期契約とし、来年度より農地中間管理事業に移行していく方針である。

単位：㎡

内 訳	地目	令和元年度保有面積	平成30年度保有面積
賃貸借	田	1,986,063	2,018,830
	畑	62,601	69,981
	その他	13,686	13,686
	小計	2,062,350	2,102,497
使用貸借	田	631,304	646,574
	畑	28,396	25,409
	その他	126	0
	小計	659,826	671,983
合 計		2,722,176	2,774,480

- (2) 所有者代理事業により売却希望相談に随時対応し、4件8筆の売買代理契約を行った。  
なお、来年度以降についても、公社において所有者代理事業は存続することとなった。

面積単位：㎡

種別	買入		売渡		未処分	
	筆数	面積	筆数	面積	件数	面積
田	8	11,874	8	11,874		
畑						
その他						
農地合計	8	11,874	8	11,874		

- ① 平井 水田(1筆)1,135㎡  
1,000,000円(881千円/10a)
- ② 作手清岳 水田(5筆)7,945㎡  
930,000円(117千円/10a)
- ③ 作手清岳 水田(1筆)1,847㎡  
210,000円(114千円/10a)
- ④ 作手清岳 水田(1筆)947㎡  
90,000円(95千円/10a)

### 2. 農地中間管理機構業務受託事業

農地中間管理事業の改正法を受けて改正された農地中間管理事業及び人・農地プランの実質化についての地区説明会を新城地区2回、鳳来・作手地区でそれぞれ1回開催した。さらに、「人・農地プランの実質化」のためのアンケート調査を管内全農家を対象に実施した。

今後、市、農協等と連携して地域の徹底した話し合いにより、「人・農地プランの実質化」を進めていく予定である。また、農地中間管理事業移行に伴う各種活用のメリットも周知していく。

### 3. 地域農業者の支援に関する事業

#### (1) 農作業受委託事業

受委託事業については、ほぼ例年並みの受託作業を行ったが、ここ数年続く秋の長雨による影響で作業不能となったほ場もあり、軟弱ほ場の管理者には中干期の徹底や早期の水切り対策を依頼した。

作業受託内容	R 1 年度実績	H30 年度実績	公社	委託
耕起	4.5ha	4.6ha	○	○
代掻き	3.9ha	2.9ha	○	○
田植え	4.9ha	7.1ha	○	○
育苗	1,368 枚	1,513 枚		○
畝立て	0.8a	0.5ha	○	
刈り取り	13.5ha	14.0ha	○	○
採種刈り取り	17.9ha	17.2ha	○	○
乾燥調整	1,459 俵	1,570 俵		○
堆肥散布	6.9ha	12.3ha	○	

#### (2) 担い手農家の育成・新規就農者受入れに関する事業

- ① 新・農業人フェア2会場「東京1回、大阪1回」、マイナビ就農フェスト「名古屋2回」、新城市アグリチャレンジ5回開催「岡崎、豊橋2回、浜松2回」、ZIP-FM20 秒 CM44 本及びメルマガ配信、Facebook 広告や現地説明会4回等を開催、イベント参加者約1,138名から84名の面談を実施。現地説明会へのアプローチと受入可能見込者への積極的勧誘活動を実施した。

※ 参考データ

イベント名称	会場名	開催日	来場者数	面談人数	評価◎	評価○	評価△
新農業人フェア	東京	01.9.8	607	15	1	9	5
	大阪	01.11.16	315	15	0	2	13
新城市アグリチャレンジ	浜松	01.6.16	13	13	2	7	4
	豊橋	01.8.18	3	3	0	3	0
	豊橋	01.10.5	7	7	1	3	3
	浜松	01.12.8	7	7	0	1	6
マイナビ就農フェスト	岡崎	02.1.26	11	11	1	6	4
	名古屋	01.9.14	96	6	1	3	2
	名古屋	01.12.22	79	7	0	2	5
合計			1,138	84	6	36	42

- ② 農業次世代人材育成支援事業による6名の研修生を受入れた。内訳は第6期生として平成30年9月からイチゴ就農専攻者3名を育成指導し、農山漁村振興交付金により、令和元年9月からイチゴ高設栽培方式により就農を開始した。また第7期生としては、令和元4月からトマト就農専攻者1名、7月、9月からはイチゴ就農専攻者2名を受入れ研修を実施している。これによりトマト就農専攻者は、本年4月から農山漁村振興交付金により隔離培土養液栽培方式により就農開始予定である。
- ③ 令和2年度の新規研修生見込者は、トマト1名、ハウレンソウ1名の2名を公社研修8期生として登録決定した。特にハウレンソウ希望者は、近年実績がなかったが1名を確保することができた。

- ④ 農業塾では第6期生10名を受入れ、農業技術や知識のない受講生に対して農業経営への関心・意識の向上を図るとともに、農地の有効利用や直売所の販売量や品目の充実化を目指し、多品種の栽培品目にチャレンジし令和元年9月1年間の農業実習を9名が修了した。同年9月からは、引き続き第7期生8名を受入れ、令和2年9月まで露地野菜を中心に栽培技術実習を実施中。
- ⑤ 農業インターンシップについては、体験時期と体験希望時期が合わず受入がなかった。

#### 4. 農林産物の種苗等の生産・供給に関する事業

##### (1) 自然薯むかご受託栽培

愛知県園芸振興基金協会委託の自然薯原々種むかご栽培は現地指導会などにより栽培管理は順調であったが夏の猛暑により、一部異形葉が出て心配されたが供給数量95,600粒以上に対し109,000粒となり、P-16及び稲武-2号ともに目標数量を納品することができた。

##### (2) 自然薯一本種芋受注栽培

管内生産農家向け一本種芋栽培は、規格サイズ4,572本の供給となり、予約数量4,450本を確保することができた。

##### (3) しいたけ菌床ブロック受注栽培

昨年度の損失を教訓に、再発防止のためのチェック体制の見える化や、菌床全体で1名の増員を図るなど、体制整備を図り161,832菌床の製造を行った。

品目	R1 年度実績	H30 年度実績
愛知県園芸振興基金協会受託むかご栽培	109,000 粒	97,400 粒
自然薯一本種芋*30g~100g(代替芽出芋含)	4,572 本	5,360 本
菌床しいたけブロック製造	161,832 菌床	160,000 菌床

#### 5. 都市農村交流促進事業

##### (1) トウモロコシもぎ取り体験

夏休み期間中の作手地区の風物詩となり、体験需要も多いことから昨年度と同様に近隣遊休農地を確保し、作付け本数8,000本を継続した。体験は約370名(前年350名)の収穫体験者を迎えた。

##### (2) つくで祭り

公社研修生が実習で栽培収穫したサツマ芋やポップコーンを加工調整し、ポテトスティックやポップコーン販売を通じ消費者との交流を行った。

##### (3) JAまつり

JAまつりの人気コーナー『しいたけ詰放題』において、新規就農研修生の販促体験を兼ね、農林業公社しんしろの菌床椎茸をPRした。

## 6. 農林産物生産事業

### (1) 自然薯栽培事業

自然薯栽培事業においては、夏の猛暑ではあったが順調に生育し、例年みられる腐りが少なく、重量や形状についても若干細く長いものが見受けられるが全般的に良好な収穫状況であった。総収穫量 434 k g (前年 255 k g)

### (2) しいたけ栽培事業

しいたけ栽培事業では、公社供給種苗の検証栽培として夏出し 14,853 菌床、秋出し 22,149 菌床の栽培実証を行った。一部菌床に水分過多のしいたけの発生が見られたが、全般的に良好な収穫状況であった。

総収穫量 26,751 k g (前年 22,406 k g)

## 7. その他会社の目的達成に必要な事業

### (1) イベント用ポップコーン種の栽培

面積 2 a

### (2) 景観作物の栽培

菜の花栽培 15 a

### (3) 作手小学校農業指導

小学生への稲作体験指導を行い、食べ物の生産過程を知るとともに感謝する食育を支援した。